

編集後記・編集部からのお知らせ



滝脇知也*

Group Epsilon はもともと Z 会で高校生に本格的な研究の紹介を行う Aleph のための準備の集まりがその前身となる。2012 年の初回の Aleph では山下さん、久保田（栄一）さん、戸神夫妻、未来さん、絢子さん、私の 7 人の集まりだった。

今回で Aleph は 4 回目だが、2 回目の Aleph の 2 ヶ月前に Group Epsilon は発足した。当時の人数は前回のおよそ倍の 12 人で、そこにはその後 Group Epsilon の運営を行ってくれた萌さん、杉浦さん、荻田さんの姿もあった。Group Epsilon の名づけの経緯等は WEB¹ で確認して欲しい。

早いものでそこからさらにもう 2 年たった。今の Epsilon は 30 名ほどの集まりで発足時の 2 倍程度になっている。驚くべきことにこれまでは 2 年ごとに等比級数的な拡大を続けている（さすがに次の 2 年はそうはいかないだろうが）。

初期の活動は年 1 回の Aleph だけであったが、Epsilon が発足してからは、Aleph よりも小規模な Meeting もあわせて年 3 回から 4 回のペースで会を開いている。研究会というものは大規模であれば良いというものではない。小規模なほうが、一般向けでないより深い話を提供・享受できるという利点もある。もし Aleph を面白いと感じたならば、是非今度は Group Epsilon の門を叩いて欲しい。

最近では Group Epsilon の活動も多岐に渡っ

ており、精読を旨とする SAge² や幅広い分野を耳学問で回覧する RASe³ などの企画も進行している。SAge は主に大学 1 年生向けに行われ、これまで萌さんが監督してきたが、今後は隅田さんにバトンタッチされる。世代交代が順調に進んでいるのは喜ばしい。

この *Acta Epsilonica* もそうして拡大してきた活動の一環である。驚くべきは病の身体でこれだけの企画力を維持している山下さんの発想力であろうか。また、この創刊号がこれほど早く出版できたのは、ひとえに編集長の未来さんの尽力のおかげである。

Group Epsilon は今後も知的好奇心に素朴に従いながら、活動を続けていく。2016 年は今のところ 5 月、6 月、9 月に Meeting を開く予定になっている。特に 5 月のもは新大学生向けの企画になるため、楽しみにしていただきたい。

Acta Epsilonica の次号もそれほど間を置かず出したい。今回のような学術的な価値の高い記事に加えて、もうすこし肩のこらない記事も掲載する予定である。ご期待いただければ幸いである。

主筆 山下弘一郎

編集長 田中未来

編集長補佐 滝脇知也

編集協力・美術監督 久保田栄一

* 国立天文台, [takiwaki.tomoya \(at\) nao.ac.jp](mailto:takiwaki.tomoya(at)nao.ac.jp).

¹ <http://kymst.net/index.php?GrpE/index>

² *Seminaire Analyse de Group Epsilon*, サーニユと読む。

³ *Reading Articles in the Street at group Epsilon*, ラーゼと読む。